

---

# 遊戯王 アルカナソウル

キャベツ王子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戲王 アルカナソウル

### 【Zコード】

Z8006Y

### 【作者名】

キヤベツ王子

### 【あらすじ】

普通のアカデミア受験生鳴上 総司。だがアカデミアの試験に行く途中で奇妙な夢を見てしまいました。

アカデミアで新たな出会い、さまざまな出来事が彼を成長させていく、そんな物語。

## 試験とこりの遅れると基本不利

「既に……」

俺の名前は鳴上総司。デュエルアカデミアの受験生だ。デュエルアカデミアと言つのはプロデュエリストを養成する所だ。

で、今日はそのデュエルアカデミアの試験、電車に乗つて試験場へと向かつている途中。

昨日遅くまでデッキ調性をしていたためか凄い眠い、このままオリンピックの日まで眠りたい、そんな気分だ。

「駅まであと10分寝るな俺……でも5分ぐらいなら……」

俺の意識は暗闇へと落ちた。

- - - - - - - - - -

「お待かしておつました」

「……？」

田の前にゴスロリ服をきた俺と同じぐらいの年頃の少女がいた。

問題は今いる場所だ。ゴスロリ服が似合わない和室…しかも戦国時代の武将が座つていそうな広い部屋だ。

もしかしてあれか？電車の中で寝ていた俺を誘拐したのか？それだと俺やばくないか？

…それはないか。

「（心配）されずに」。現実のあなたは眠っているだけ、ここは夢の世界だとお考へて下さい」

「・・・」

…頭が痛くなつてきた。

「失礼。自己紹介が遅れました。私、キヤサリンと申します。以後お見知りおきを。

「はあ…俺は鳴上総司です…」

キヤサリンが丁寧に喋るので、つられて俺も丁寧になつてしまつ。

「突然お呼び立てして申し訳ありません。実はあなたに話しておかないといけない話がありますので」

「話つて？」

「あなたにある力の素質があるのです。ですが、あくまで素質、その力に目覚めるかどうかはあなた次第。私はその力を持つ者を導くのが私の役目で御座います」

力…？素質…？まるで意味がわからんぞ！

「今は分からなくて結構。しかし、ここでは何でも調べる事が出来ますので、調べ物が出来ましたらこの鍵を使い、ここにいらっしゃつて下せませ。私が力になります」

「それでは、」と、「といにキヤサリンは指パッチンをする。すると俺の意識がうつすらと消えていく

…………

「……ん……」

田が冷めると電車の中、椅子に座っていた。

それにしても……なんだ今の夢……ホント疲れてんかな……ま、たちの悪い夢だと思つて忘れるか……

……やばい……今どこの……え……き

「……？」

まあこ……電車降りる駅通りにしてくるだと……？

「やばい……」

不幸中の幸いか、電車は駅で止まっていた。降りて電車に乗れば間に合つか?

考える前に全速力で電車を降りていた。

- - - - -

「ぜえ……ぜえ……」

ぎりぎり…か?

「90番!鳴上総司!いないのか!?」

「はいはい!…します!今行きますから!…ぜえぜえ…」

くそッ…今日は災難だな…そう言えば…必勝祈願で行つた神社でおみくじ日居たら大凶だつたけ?

「ダメだ!ダメだ!そんなん考えてたらホントに落ちるつて!」

ダメだ…疲れて上手く頭が上手く回らない…。おかげで変な目で見られてるよ…

「おい、大丈夫か?」

「あ?」

凛とした声の主は赤い髪のポニー・テールの女性だった。

「酷く疲れているようだが…」

「大丈夫、大丈夫!でも、心配してくれてありがとう。じゃ!…急いでるから!…」

俺は今日行われる実技試験の会場へと走った。

「待たせたねお姉ちゃん」

「別に待つていい。試験はどうだった?」

「…あんなのただのザコキャラよ。」

「そうか、じゃあそろそろ行こうか

二人の姉妹は総司が走った逆の方へ歩き出した。

- - - - - - - - -

「遅いのーネ!」

「ぜえ…ぜえ…すんません!」

会場にいたのは黄色いおかっぱだった。

「ペナルティとしてデュエルアカデミア実技最高責任者である私が  
相手をするノーネ!」

「まじっすか…ぜえ…ぜえ…」

ダメだ…今日は本当にダメな日だ、人生で一、二番目に不幸な日だ…

「せつと用意するノーネ!」

「ゼエ…ゼエ…」ハハなりややけだ!」

俺は素早くデュエルディスクを装着する。昨日徹夜してまで改良したデッキをデュエルディスクに入れれる。

「「デュエル!..」「

総司 LP 4000

おかげば LP 4000

「先行は譲つてやるのーネ!」

「あやつすー俺のターン!」

手札は…上々、まだましな手札だ。

「【磨破羅魏】を召喚!」このモンスターの効果は次の俺のドローフェイズにデッキトックを確認し、デッキの一番上か下におく事が出来る!」

【磨破羅魏】

ATK1200

「俺はこれでターンエンド。そして【磨破羅魏】はスピリットモンスター。自身の効果により手札に戻る。ああ、どうからでもどうぞ!」

「フィールドをがら空きにするなんてなめてのです カ!?.私のターン!フィールド魔法【歯車街】を発動を発動するノーネー更に力

ードを一枚伏せ、【大嵐】を発動するノーネ！

一枚の伏せカードと歯車だけの街が嵐によつて破壊される。

凄く嫌な予感しかしない…

「破壊された【歯車街】と伏せカード一枚の【黄金の邪神像】の効果を発動スルーの！まずは【歯車街】の効果により、デッキから【古代の機械巨竜】を特殊召喚するノーネ！次にセットされていた【黄金の邪神像】破壊された事で【邪神トーケン】を特殊召喚するノーネ！」

【古代の機械巨竜】

ATK3000

【邪神トーケン】×2

ATK1000

「まだまだですーー！一体の【邪神トーケン】を生贊に捧げ、来るノーネ！【古代の機械巨人】！」

【古代の機械巨人】

ATK3000

攻撃力3000のモンスターが一体…流石に実技の最高責任者つて事はあるな…。この絶望的な状況から観客席からは「終わったな」と思つていそうな顔をしている人がほんんだ。

「これで終わりナノーネ！一体のモンスターでダイレクトアタックするノーネ！」

まずは【古代の機械巨人】が俺に殴りかかってきたが、その攻撃は鐘を持つた悪魔のようなモンスターに防がれる。

「何なのーネ！？」

「相手からの直接攻撃を受けた事により、手札から【バトルフェード】の効果が発動！バトルフェイズを終了させ、このカードを特殊召喚！」

【バトルフェーダー】

DEF 0

「焦っちゃダメですよ先生」

「ぐぬぬ…、ターンエンドナーネ！」

「俺のターン！【摩破羅魏】の効果により、『テックキトッピング』を確認する

デッキトッピングのカードは【聖なるバリア・ミラーフォース】…。アントイーク・ギアシリーズにはほとんどの攻撃反応型のトラップには効かない…よって今の状況では無意味のカード…

「俺は確認したカードをテックの一番下に置く。そしてドロー…！  
フツ…」

「悪いなおかっぱ先生…俺の勝ちだ…！」

「【バトルフェーダー】を生贊に捧げ、【砂塵の悪霊】を召喚…！」

「いつは召喚成功時、フィールドに存在するこのカード以外の表側表示モンスターをすべて破壊する！サンド・ストーム！」

【砂塵の悪霊】が砂嵐を起し、おかげで先生の一體の機械族モンスターは砂まみれになり、機能停止する。

「ななんですかーとー？」

「手札のスピリットモンスター【伊弉波】を除外し、手札から【伊弉波】を特殊召喚！」

【砂塵の悪霊】

ATK2200

【伊弉波】

ATK2200

「バトル！【砂塵の悪霊】でダイレクトアタック！更に【伊弉波】もダイレクトアタック！ブレイブ・ザッパー！」

「ペペロンチーノあああー！」

おかげば

LP 4000 1800 0

「試験の結果は後日通達するホーネー」

「はいですーの…じゃなくて、了解です！ありがとうございました」

ふう……緊張したな……実技の最高責任者っていつぐらいだから負けるかと思つたけど、なんとか勝てた。受験生だから手を抜いてくれたのか?

「よーお疲れさん!」

「悠か、ありがとうございます!」

有里 悠。俺の昔からよくつるんでる奴だ。どんな奴かって聞かれると、友達思いな奴だな。

「…? 今日は愛華と一緒にじゃないのか?」

「用事があるから試験が終わってすぐ帰った。なんの用事かは聞いてないけどな」

愛華といつのは悠と同じ孤児院で暮らしてゐる女の子だ。ついでに言うと悠の恋人だ。「爆発しない

「なんか言つたか?」

「別に。誰も爆発しろとは言つてしませんが

「敬語になつてんぞ! それに爆発しろってなんだ! ?」

「そんのはビリでもいいから腹減つた。マック行くぞ!」

「無視すんなあ ああ!」

マックへ向かう途中俺と同じ様に遅刻したのか走っている奴がいた  
けど、そいつの話はまた別のお話…。

## 試験といつのは遅れると基本不利（後書き）

今回の最強カード

伊弉凪 / Izanagi  
イザナギ

+

効果モンスター

星6／風属性／天使族／攻2200／守1000

このカードは手札のスピリットモンスター1体をゲームから除外し、手札から特殊召喚することができる。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在するスピリットモンスターは、エンドフェイズ時に手札に戻る効果を発動しなくてもよい。

総司「スピリットモンスター関連で優一特殊召喚が出来るモンスターだ。【雷帝神】が倒せない【サイバー・ドラゴン】を倒せるという中々使えるモンスターで、スピリットモンスターを維持出来る効果を持つ。ちなみに俺のフェイバリットカードだ」

## 主人公と注意

鳴神 総司

年齢… 15 歳

性別… 男

身長… 170 cm

使用デバイスキ』スピリット』

見た目は… ペルソナ4の男主人公だと思つて下さい。  
どこにでもいる一般のアカデミアの受験生… のはずだが試験会場へ  
向かう途中、謎の夢を見る事になる。その夢の内容を要約すると、  
総司には力の素質があるとかそんな感じ。とある友人にだけはドS  
になる。

両親は事故で無くしており、今は叔父の家で生活している。

注意をいくつか。

- 1、オリキャラ & オリカラ多数ですご注意下さい。
- 2、ある一人のTFキャラの設定をストーリーの展開上、大きく変更しております。
- 3、作者は文オナッシングです。
- 4、不定期更新（出来れば更新する日を決めて行く予定）

以上の事が苦手な方は読む事をやめる事をお勧めしません。慣れて下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8006y/>

遊戯王 アルカナソウル

2011年11月23日20時50分発行